

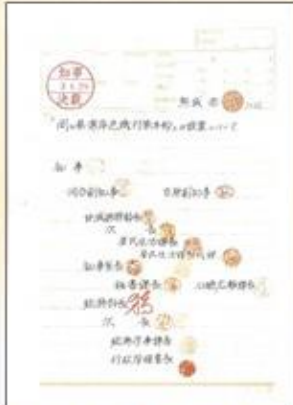
〈展示品紹介〉

岡山県立記録資料館 第81回所蔵資料展

公文書



台風19号被災地を知事が視察(平成2年)

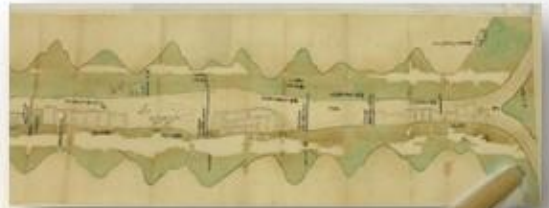


沿岸危機対策本部の設置起案(平成2年度)



看板掛け(平成3年)

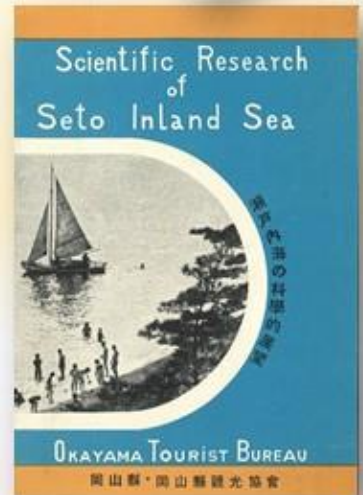
古文書



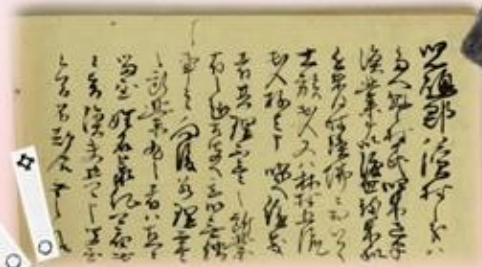
後月郡西江原村池普請願絵図(江戸中期)

選りすぐりの

新公開



観光パンフレット(昭和20年代)



勤方書留帳(明治4年)

令和3年6月22日(火)～8月21日(土) 9時～17時

休館日：毎週月曜日/国民の祝日・休日/8月10日(火) 11日(水)

会場：岡山県立記録資料館 1階展示コーナー

入場
無料

うらばなし

日時：令和3年7月10日(土) 13:30～14:30

場所：岡山県立記録資料館 研修室

参加費：無料

定員：20名(事前申込、先着順)

申込電話番号 086-222-7838

新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、中止する場合があります。



きろくる岡山・きろくる
岡山県立記録資料館
Okayama Prefectural Archives

岡山市北区南方2-13-1

TEL 086-222-7838

<https://archives.pref.okayama.jp/>



今回の新公開資料は平成2年度(1990) 完結のものです。

この年、世界では湾岸戦争の勃発、国内ではバブル経済の崩壊、県内では台風第19号による甚大な被害という大きな出来事がありました。

県では、中四国の経済文化圏の創造、均衡発展の県土づくり、豊かさが実感できる郷土づくりを三つの柱に、新たな岡山県づくりを推進していましたが、今回の展示では、湾岸危機対策本部の設置と台風第19号災害に係る公文書を展示します。

また、この年の各種事業等の写真も展示します。

1. 岡山県湾岸危機対策本部の設置

『平成3年1月29日設置 湾岸危機対策本部 No.1』
平成2年度(1990)
公文書(1995/県民生活/9)

平成2年(1990)8月2日、イラク軍がクウェートに侵攻しました。国際連合は即時無条件撤退を命令しましたが撤退しなかったため、平成3年(1991)1月17日、米国を中心とする多国籍軍が爆撃を開始し、湾岸戦争が勃発しました。

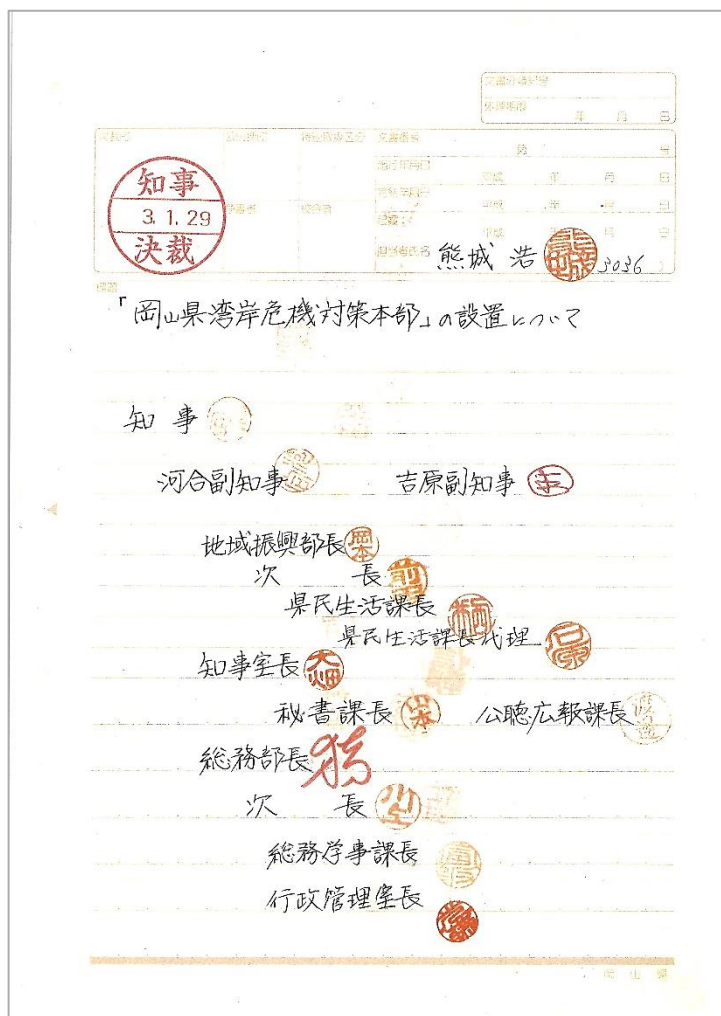
これにより石油製品の日本への輸入が危ぶまれたので、開戦した1月17日に「岡山県生活安定緊急対策連絡会議」を設置しました。

その後、連絡会議を格上げし、1月29日に知事を本部長とする「岡山県湾岸危機対策本部」設置となりました。

対策本部は、県民生活の安定と経済活動の円滑な運営を確保するため、石油製品等の生活関連物資及び生産用物資の需給や流通の動向を調査・監視し、県民に対して正確な情報を迅速に広報しました。業界に対しては節度ある行動を要請しました。また省資源・省エネルギー運動も推進しました。

左の文書は、対策本部を設置することについて知事の決裁を得るために起案した文書です。

設置要綱と主管課・県民生活課の取り組み状況も展示しています。



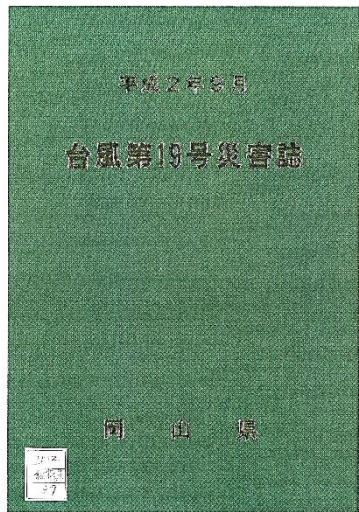
2. 平成2年9月 台風第19号災害誌

平成2年度(1990)
公文書(2012/秘書/37)

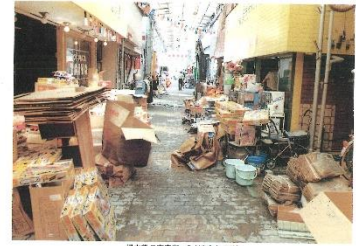
平成2年9月18日から19日にかけて台風第19号により集中豪雨に見舞われました。

被害は県南東部を中心に、死者10名をはじめ、家屋の全半壊46世帯、床上・床下浸水7,967世帯におよび、被害額は農林関係約180億円、土木施設関係約162億円、商工関係約54億円など総額で約402億円にのぼりました。

この冊子は、今後の防災対策に資するため県(担当課：地域振興部消防防災課)が編纂しました。写真は、和気町及び牛窓町(現瀬戸内市)における被災状況と救助活動です。



海抜低地による人命救助(和気町和気)



洪水後の商店街(瀬戸内市牛窓)



和気町工業団地前平野の浸水(和気町和気)



ため池の堤防中央部決壊(和気町和気)

3. 台風第19号による学校被害報告

『災害報告書 台風19号』
平成2年度(1990)
公文書(2007/財務課/2)

台風第19号は文教施設にも大きなツメ跡を残しました。

学校が被災した市町村長は、文部大臣へ学校ごとの被害額と状況を報告しました。11市町から22校の報告を県教育庁財務課が取りまとめて文部省へ提出しました。

長船町(現瀬戸内市)長から提出されたものの学校名の前に○印を付しているのは国庫補助金を申請予定のものです。一例として国府幼稚園の床上浸水した園舎の配置図と写真を添付しています。

文部大臣 保利耕輔 殿

岡山県久米郡長船町長 松村敏夫 様

災害報告書

平成2年9月19日の台風19号により、公立学校施設に下記のとおり被害が発生しましたので、報告します。

記 (単位：千円)

被害 学校名	被害状況										被害 金額 計
	建物					工作物 被害 金額	土地 被害 金額	設備 被害 金額	被害 金額 計		
	要 全 面積	新 築 金額	築 半 壊 金額	要 大 修 以 下 金額	修 補 計 金額						
○国府幼稚園				3648	3648			1946	5594		
○国府小学校				4308	4308			1113	5421		
○長船町立				2,000	2,000	18,000		20,000			
計 3校				9956	9956	18,000		3059	31,015		

(注) 1. 金額欄には、復旧に要する経費を記入する。
2. 国庫負担(補助)事業として、申請予定の学校は、被害学校名に○印を付す。



4. 山陽自動車道（備前一岡山間）着工式

平成 2 年 (1990) 4 月 10 日
公聴広報課引継写真 (2042)

平成 5 年度の供用に向けて、和気郡和気町の和気インターチェンジ予定地で行われました。関係者がくわ入れし、工事の安全を祈願しました。

5. 龍ノログリーンシャワー公園が開園

平成 2 年 (1990) 4 月 11 日
公聴広報課引継写真 (2044)

平成改元を記念して、岡山市祇園（現岡山市中区）の龍ノ口山国有林の一角に、森林浴などが楽しめる都市近郊林として整備を進めていました。関係者約 130 人が出席して開園式を行い、記念植樹をしました。



6. 現在の龍ノログリーンシャワーの森

令和 3 年 (2021) 5 月 18 日

平成 22 年に龍ノログリーンシャワー公園から名称変更されました。

7. 「晴れの国 岡山フェスティバル」の開催

平成 2 年 (1990) 9 月 7 日
公聴広報課引継写真 (2108)

大阪市の鶴見緑地で開催された「国際花と緑の博覧会」のメインホールで開催しました。ジーンズを主体とした華麗なファッションショーや郷土出身のロック歌手葛城ユキのライブショーなどを行い、3 千人の観衆に晴れの国岡山を PR しました。



8. 台風第 19 号被災地を知事が視察

平成 2 年(1990)9 月 22 日
公聴広報課引継写真(2111/3)

台風第 19 号は 9 月 18 日から 19 日にかけて、県南東部を中心に大きな被害をもたらしました。長野知事は 21 日と 22 日に被災地へ出向き、被災説明を受けながらみんなを激励して回りました。写真の場所は邑久郡長船町（現瀬戸内市）です。



9. 岡山セラミックスセンターオープン

平成 2 年(1990)10 月 1 日
公聴広報課引継写真(2125)

前年 10 月から 6 億 4 千万円の事業費をかけて備前市西片上に建設を進めていた岡山セラミックスセンターが完成し、オープンしました。運営は第 3 セクターが行い、れんがを始めとする耐火物の研究開発を促進しました。



10. 岡山－札幌線直行便就航

平成 2 年(1990)12 月 27 日
公聴広報課引継写真(2152)

全日空が県民待望の岡山－札幌線の運航を開始しました。札幌からの初便が到着し、関係者が乗客を出迎えました。運航便数は週 3 便（月・木・土曜日）でした。



11. 岡山県湾岸危機対策本部を設置

平成 3 年(1991)1 月 29 日
公聴広報課引継写真 3005

岡山県湾岸危機対策本部を設置しました。地域振興部長が本部の庶務を行う地域振興部県民生活課に看板を掛けました。

当館では岡山県に関する資料を購入・寄贈・移管・寄託といったかたちで受け入れています。

昨年度新たに目録整理し、データベースで目録公開した資料群の中から選りすぐりのものを 12 点厳選して展示します。

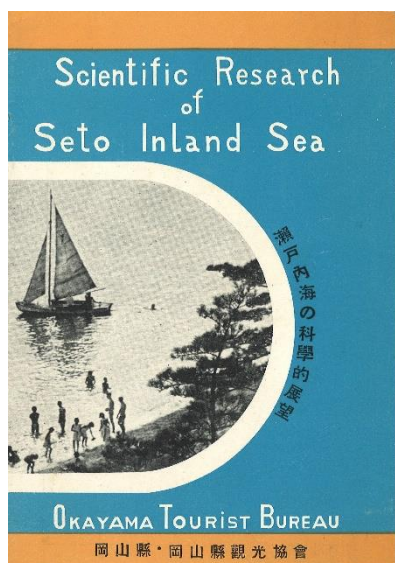
資料群「小川長松氏保存資料」について —昭和初期から 30 年頃までの観光パンフレット類—

本資料群は小川長松氏（岡山市、1900～1980）が保存した岡山県観光協会関係資料です。文書や昭和初期から 36 年までに収集した全国の観光パンフレットや絵葉書・刊本などが中心です。

パンフレット類の総数は 634 点、内訳は岡山県内 135 点、その他の中国地方 99 点、四国地方 49 点、九州・沖縄地方 56 点、北海道地方 21 点、東北地方 37 点、関東地方 17 点、中部地方 33 点、近畿地方 48 点、その他 139 点になります。

その中からパンフレット 3 点、絵葉書 2 点を展示します。

戦後岡山県では昭和 21 年（1946）5 月に岡山県観光協会を設置、昭和 25 年頃から県が関係市町村・団体と観光資源の開発を促進し、27 年 4 月に通商観光課を設置、観光協会と表裏一体となって観光行政に力を入れました。



12. 瀬戸内海の科学的展望

昭和 21～26 年（1946～1952）
小川長松氏保存資料（B271-9）

ノートルダム清心女子大学の佐藤清明教授（博物学）が科学的見地で瀬戸内海を解説し、英訳をつけて紹介しています。

瀬戸内海は昭和 9 年（1934）3 月に最初の国立公園に指定されました。このガイドブックは岡山県と昭和 21 年に設立した岡山県観光協会（27 年に観光連盟と改称）が刊行したものです。戦後間もなく県が外国人に向けての PR に力を入れていたことがうかがえます。

展望の末文には「再建日本の一翼を担当すべき瀬戸内海の観光、瀬戸内海の企業、およそ内海についての文化的のいとなみは先ずこの科学的展望から出発して科学的計画の上に立たなくてはなりません」とあり、戦後間もない時期の熱い思いが述べられています。全文はこちらから→

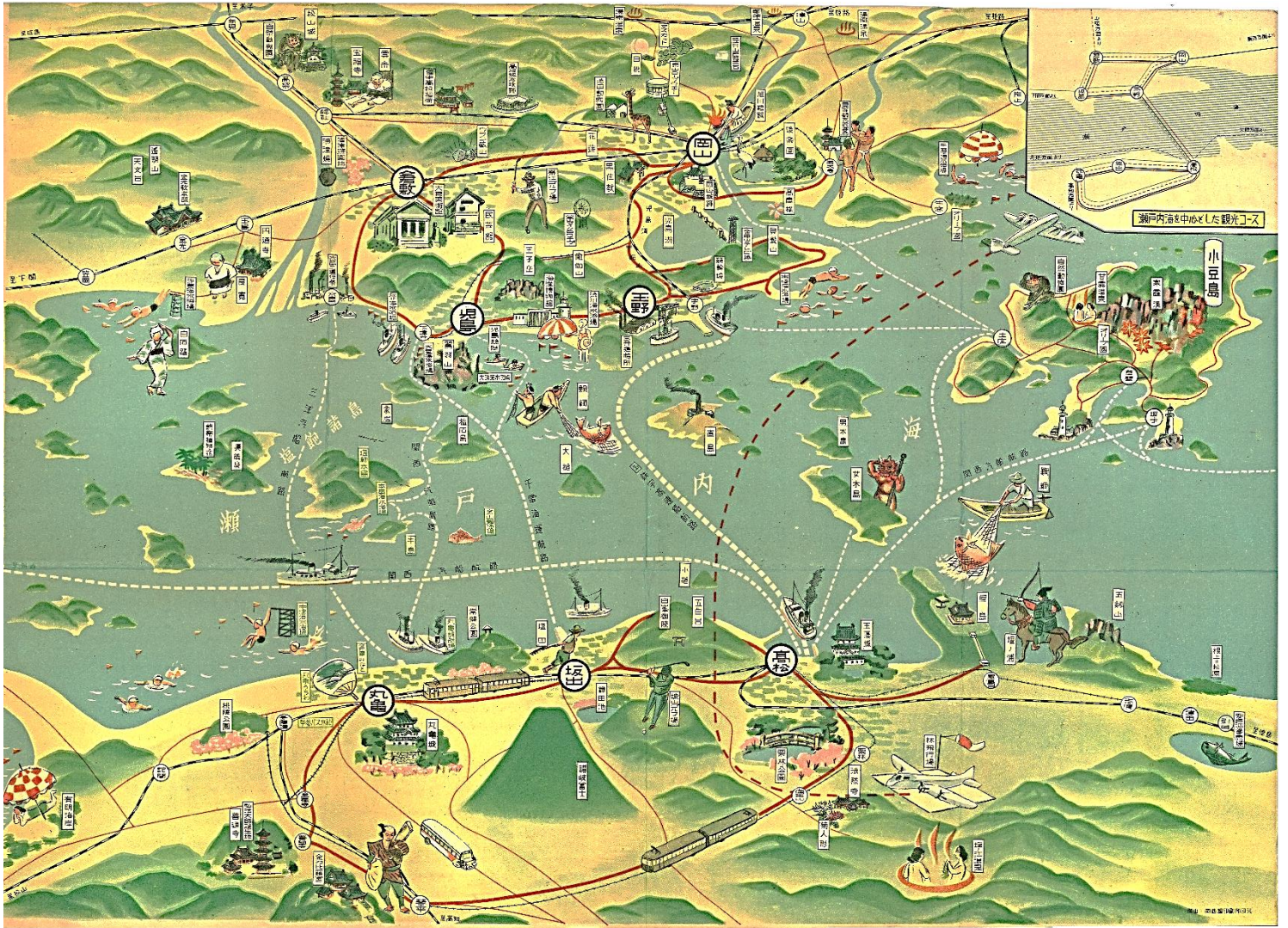


13. National Park Seto inland sea (瀬戸内海国立公園)

昭和 35～37 年 (1960～1962)
小川長松氏保存資料 (B271-10)

備讃都市観光協議会が作成したパンフレットです。瀬戸内海に面した岡山県の岡山市・倉敷市・玉野市・児島市 (昭和 23～42 年) と、香川県の高松市・丸亀市・坂出市が協議会を結成し、両県一体となって観光案内をしたものです。昭和 20 年代～30 年代にかけて新しくできた観光地も描いています。

池田動物園の名称や昭和 37 年まで真鍋島にあった熱帯植物園が見られることから昭和 35 年から 37 年の間に作成されたものと思われます。



【参考】

施設名	開業年
池田動物園 (旧名 : 池田産業)	昭和 35 (1960) (池田産業は昭和 28 年より)
京山ロープウェー	昭和 31 年 (1956)
玉野海洋博物館	昭和 28 年 (1953)
倉敷民芸館	昭和 23 年 (1948)
児島競艇	昭和 27 年 (1952)
児島湖	昭和 34 年 (1959)
金甲山テレビ塔	昭和 32 年 (1957)

拡大画像
はこちら
から





14. 岡山県の温泉

昭和 21～26 年 (1946～1952)
小川長松氏保存資料 (B271-25)

岡山県観光協会が県内の温泉を紹介するパンフレットです。湯原・湯郷・奥津などの県北の温泉地を中心に、裏面には岡山市郊外の温泉があります。

「岡山への旅のつかれは郊外へ1足のぼして」と呼びかけ、温泉の魅力を写真付で伝えています。

15. 観光のにいみ

年未詳、6 枚中 2 枚を展示
小川長松氏保存資料 (B271-64)

新見市・新見市観光協会の絵葉書です。カラー印刷で、昔から続く大名行列や、夏に人気の満奇洞、矢の峯高原のグラススキー、昭和 31 年 (1956) に完成した小阪部川ダムなどが写っています。



16. 観光の笠岡地方

年未詳、6 枚中 2 枚を展示
小川長松氏保存資料 (B271-371)

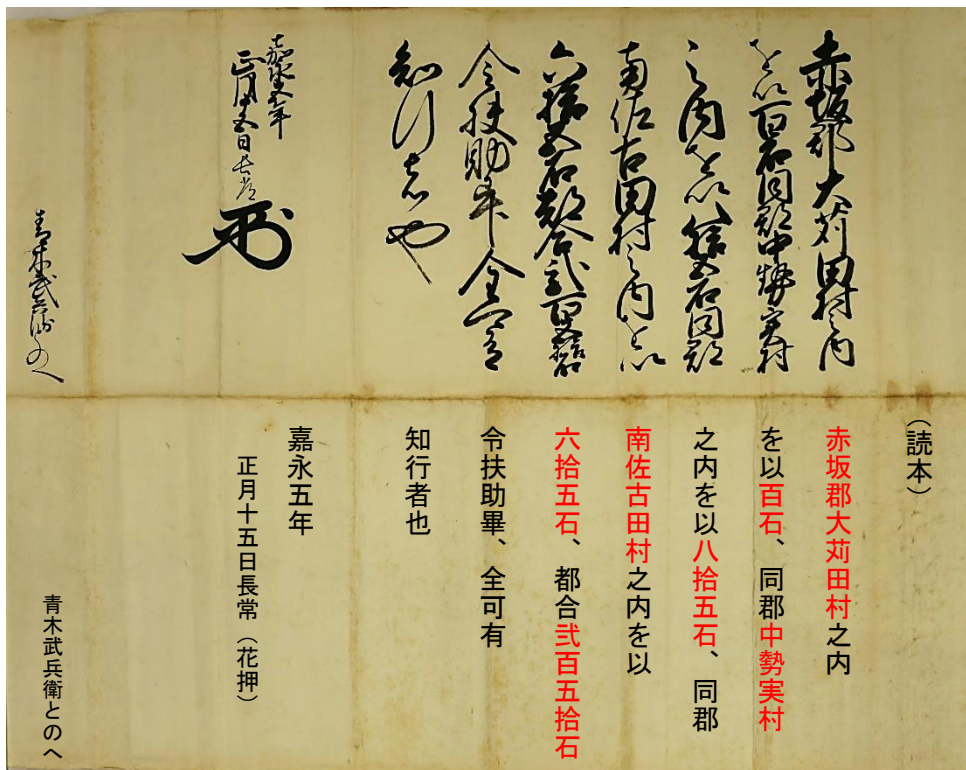
笠岡市・笠岡地方観光連盟が発行した絵葉書です。伝統的な白石踊りや、夏の海水浴場、笠岡港の花火などの観光名所をはじめ、当時真鍋島でさかんであった花卉栽培など、その土地ならではの産業も紹介されています。

資料群「周匝池田家家臣青木家資料」について — 周匝の“ラストサムライ” —

すさい
青木家は周匝に陣屋を置いた岡山藩家老池田家（片桐、2万2000石）に江戸時代を通して代々仕えしました。本展示では、幕末から明治に生きた七代目青木武兵衛に関する資料6点を紹介します。

武兵衛は天保4年（1835）に21歳で家督（知行250石）を継いだ後、幕末には岡山藩仕置家老で後に軍事御用惣引請となった池田長常（1820～1876）のもとで、軍役に活躍しました。「奉公書」を見ると、慶応2年（1866）4月倉敷浅尾騒動で作州飯岡村堺の大渡場出張、6月長州戦争応援、11月作州百姓騒動で和気奥塩田出張、4年1月作州鎮撫、4月津山勝山の使者などを務めています。その際に使用したと思われる陣羽織や旗が残されています。

当館に寄贈された青木家資料の総数は253点です。片桐池田家初代の長政から拝領した慶長9年（1604）の知行宛行状など、江戸初期～前期のものから、明治中期の小学教師任免状や税務署任免状、戦前の第六高等学校古写真などがあります。



17. 知行宛行状

「青木武兵衛宛池田長常御判物」
嘉永5年(1852)1月15日
周匝池田家家臣青木家資料 (B283-6)

嘉永4年（1851）岡山藩家老池田長貞が隠居し、長常が跡を継ぎました。この知行宛行状は代替わりした長常から青木武兵衛に改めて下付したものです。長常の花押があり、宛名がそれよりも下部に書かれています。折紙という形態のため、下半分は白紙です。

赤坂郡大苅田村（現赤磐市）100石、中勢実村85石、南佐古田村65石、合わせて250石が改めて青木武兵衛の知行となりました。



18. 周匝池田家家紋入旗

年未詳
周匝池田家家臣青木家資料 (B283-40)

青木武兵衛が使用した旗です。棹につけ、背中に背負った受筒にさして右図のように使用しました。これを「指物」といい、陣中で家格の大小や役職を示しました。

周匝池田家の家紋の井桁が入れています。展示している朱色の他に水色の旗や、源右衛門（初代）、記乃（武兵衛の息子）の旗が残されています。



【使用例】御長柄奉行指物図

(出典:岡山藩家老周匝池田長仍家中旗指物等武具図 B283-36)



19. 青木家家紋入羽織

年未詳
周匝池田家家臣青木家資料 (B283-43)

羽織には「銘々の紋」を入れていました。青木家の家紋は「三つ矢の丸に鞠」でした。

【参考】羽織図

(出典:岡山藩家老周匝池田長仍家中旗指物等武具図 B283-36)



20. 明治4年八浜の漁場に士族立入禁止

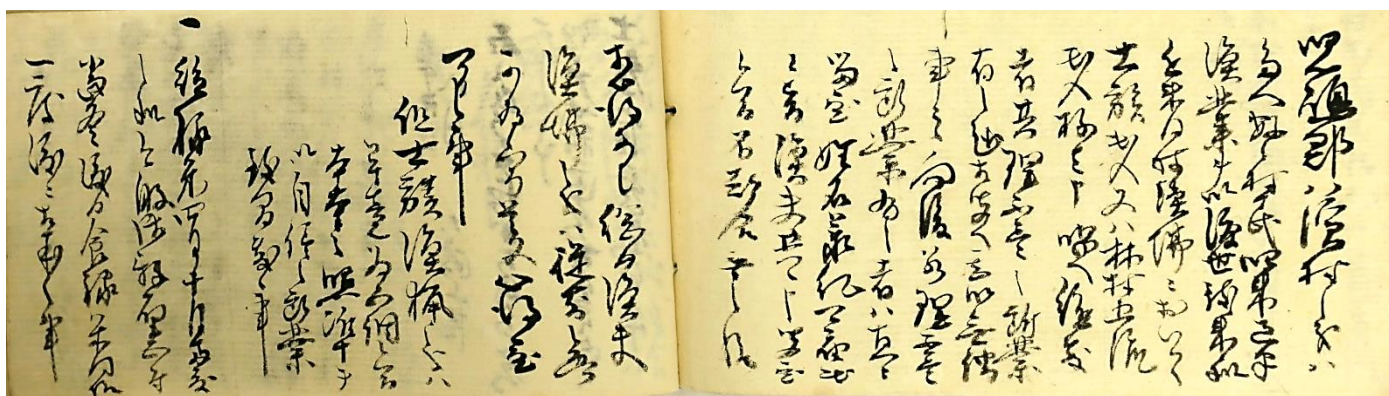
「青木武平太勤方書留帳」
明治4年(1871)
周匝池田家家臣青木家資料 (B283-30)

青木武兵衛は明治2年に武平太と改名し、藩政改革により岡山藩の藩列に加わり、知行90石になります。

この留帳は明治3年7月より5年10月まで武平太が藩に提出した願書や、太政官からの諸達、岡山藩の諸達などを書留めています。

展示している部分では廃藩置県後の明治4年、八浜の漁場に士族※が立入ることを県が取り締まった達です。生活の苦しくなった士族たちが漁業権を侵害している様子が見えます。その後政府は士族層に対する職業の自由を公認しました。

※明治2年の版籍奉還により旧武士階級が政府に属することになり呼ばれた呼称。



(読本)

児島郡八浜村之義ハ、
多人數之村民旧來過半
漁業ヲ以渡世致來候処、
近來同村漁場において

士族出入又ハ林村五流
出入杯与申唱へ、絶數

者共理不尽之所業

有之趣相聞へ、甚以無謂

事之、向後若理不尽

之所業有之者ハ直二

留置、姓名承継可届出

候旨漁夫共へ申聞置

候間、不都合無之様

相心得可申候、総而漁夫

漁場之義ハ從前之通り

可為候間、是又心得置

可申候事

但士族漁獵之義ハ

畢竟為取調候間、

本達之照準ヲ

以自便之所業

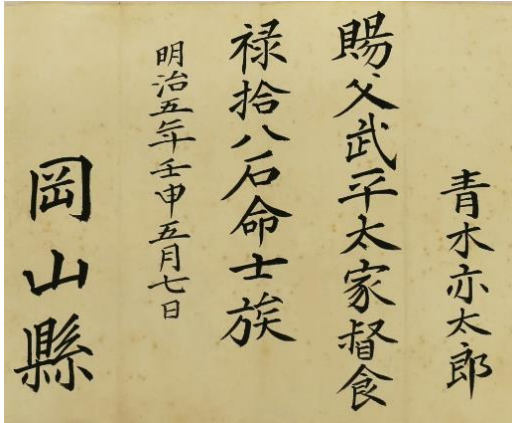
致間敷候事

一給禄米四月十月兩度

之処、今般御具有志付

当冬渡る食禄米同様

一度渡二相成候事



21. 青木亦太郎家督相続許可状

明治5年(1872)5月7日
周匝池田家家臣青木家資料(B283-17)

明治5年5月7日、亦太郎が父武平太(明治2年武兵衛より改名)の家督を相続し、岡山県から食禄※18石を賜り、士族を命じられました。

その後秩禄処分が行われ無収入となりますが、小学校教師として職を食むことになります。

※ 知行や扶持のこと。奉公書によると明治3年からこの表記となります。

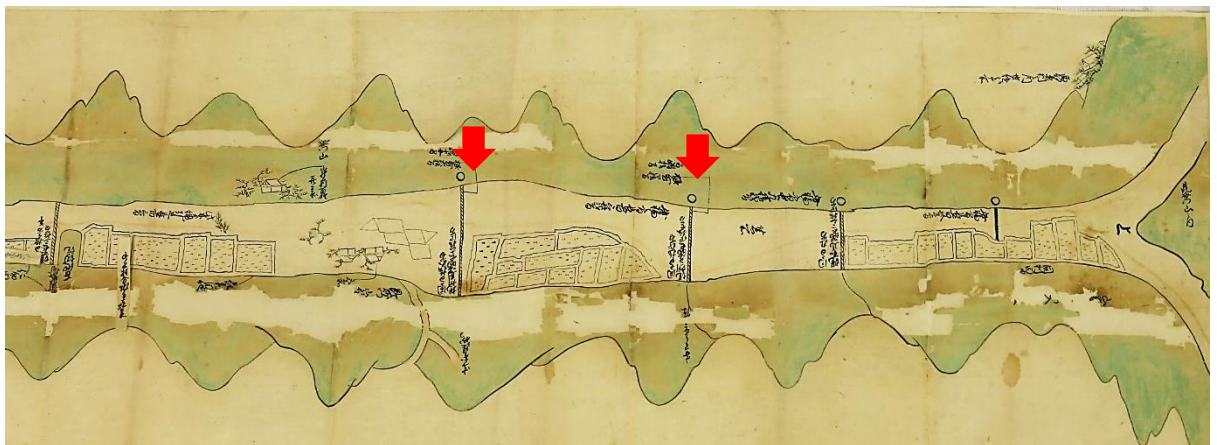
22. 青木家家紋入保存箱

周匝池田家家臣青木家資料(B283-253)

寄贈者が自作された保存箱です。青木家の家紋「三つ矢の丸に鞠」が入れています。



岡山県立博物館より新たに移管した資料



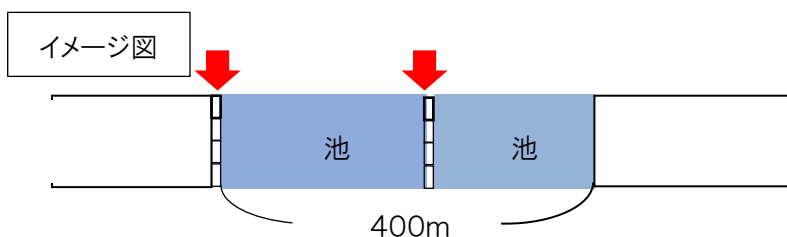
【参考】

23. 新池普請願絵図

江戸中期
後月郡西江原村堤池普請関係絵図(C69-1)

井原市西江原毘沙門山の小川に新池を作るための計画図です。絵図の2ヶ所(↓)に堤を築き、長さ400mにおよぶ池を構想しています。西江原村の庄屋嘉右衛門が、同じものを2枚作成した内の1枚で、もう1枚には【参考】の貼紙がありました。

山を着色し、谷筋の田地や宅地を丁寧に描いています。紙の変色や破れが見られますが、軸物にして大切に保管されてきました。現在同所には池は見られません。



〔現在の毘沙門地区〕



第 81 回所蔵資料展「選りすぐりの新公開」展示資料目録

	番号	資料名・内容	年代	資料群名等	資料番号
公文書	1	岡山県湾岸危機対策本部の設置	平成2年度(1990)	公文書「平成3年1月29日設置 湾岸危機対策本部 No.1」	1995/県民生活/9
	2	平成2年9月 台風第19号災害誌	平成2年度(1990)	公文書「平成2年9月 台風第19号災害誌」	2012/秘書/37
	3	台風第19号による学校被害報告	平成2年度(1990)	公文書「災害報告書 台風19号」	2007/財務課/2
	4	山陽自動車道(備前-岡山間)着工式	平成2年(1990)4月10日	公聴広報課引継写真	2042
	5	龍ノログリーンシャワー公園が開園	平成2年(1990)4月11日	公聴広報課引継写真	2044
	6	現在の龍ノログリーンシャワーの森	令和3年(2021)5月18日撮影		
	7	「晴れの国 岡山フェスティバル」の開催	平成2年(1990)9月7日	公聴広報課引継写真	2108
	8	台風第19号被災地を知事が視察	平成2年(1990)9月22日	公聴広報課引継写真	2111・3
	9	岡山セラミックスセンターオープン	平成2年(1990)10月1日	公聴広報課引継写真	2125
	10	岡山-札幌線直行便就航	平成2年(1990)12月27日	公聴広報課引継写真	2152
	11	岡山県湾岸危機対策本部を設置	平成3年(1991)1月29日	公聴広報課引継写真	3005
古文書	12	瀬戸内海の科学的展望	昭和21~26年(1946~1952)	小川長松氏保存資料	B271-9
	13	National Park Seto inland sea (国立公園瀬戸内海)	昭和35~37年(1960~1962)	小川長松氏保存資料	B271-10
	14	岡山県の温泉	昭和21~26年(1946~1952)	小川長松氏保存資料	B271-25
	15	観光のにいみ	年未詳	小川長松氏保存資料	B271-64
	16	観光の笠岡地方	年未詳	小川長松氏保存資料	B271-371
	17	青木武兵衛宛池田長常御判物	嘉永5年(1852)1月15日	周匝池田家家臣青木家資料	B283-6
	18	周匝池田家家紋入旗	年未詳	周匝池田家家臣青木家資料	B283-40
	19	青木家家紋入羽織	年未詳	周匝池田家家臣青木家資料	B283-43
	20	青木武平太勤方書留帳	明治4年(1871)8月	周匝池田家家臣青木家資料	B283-30
	21	青木亦太郎家督相続許可状	明治5年(1872)5月7日	周匝池田家家臣青木家資料	B283-17
	22	青木家家紋入保存箱	年未詳	周匝池田家家臣青木家資料	B283-253
	23	後月郡西江原村・山野上村境毘沙門山新池普請願絵図	江戸中期	後月郡西江原村堤池普請関係絵図	C69-1



おうちで全国の観光地へタイムスリップ!!

展示にあわせて昭和初期から30年代の全国の
観光パンフレットをHPよりデジタル公開して
いきます。

詳しくはこちらから→

